

# 「丹波の森」のすがた

自然と人と文化が調和した地域を「丹波の森」と呼び、大切に守り育てていく。  
丹波地域の住民は、この思いを昭和63年の「丹波の森宣言」に込め、実践してきた。  
その結果が、日本の原風景といわれ、全国に誇れるふるさと丹波の今の姿につながっている。

## I 丹波の森づくり

### < “もりびと” による丹波の森づくり >

丹波の森づくりがはじまって30年。この間、丹波地域では、北摂丹波の祭典 ホロンピア'88から、丹波の森協会の発足と丹波の森大学の開講、ウィーンの森との国際的な友好親善、シューベルティアードたんばや市民オペラの公演、丹波の森ウッドクラフト展の開催、丹波のむかしばなしの編纂など、さまざまな分野にわたり全県、全国にも誇れる先進的事業が進められてきた。

一方、少子高齢化による人口減少や、自然環境、生活環境の変化により、森や農地の荒廃、伝統文化の継承の難しさ、集落組織の維持困難といった地域課題にも直面している。

これら課題を乗り越え、住民・事業者・行政が丹波地域に誇りと愛着を持ち、自然を守り、生活文化を高揚させ、さらに、丹波地域に暮らす住民だけでなく、丹波地域と関わりのある人々や企業も含めて社会活動に積極的に取り組む人を“もりびと”と称し、「丹波の森づくり」に取り組んでいる。

## II 美しく懐かしい山里風景

地域を象徴するような際だった地形や地物、建造物はないものの、山々に囲まれた盆地にひろがる、川筋、農地、集落などの要素が絶妙なバランスを保って調和している山里風景が特徴で、美しく懐かしいその姿は、日本の原風景と言われている。



### < 四季折々に際立つ風景 >

日本海側と瀬戸内海側の中間性の内陸気候であり、盆地特有の年間の寒暖差、特に昼夜の温度差が大きい。このことが、秋の紅葉の名所の多さと鮮やかさ、秋冬の丹波霧に包まれた幽玄な風景の出現といった際だった風景を生み出している。

### < 地域を抱く山々 >

森林が約75%、比高約600mの山々に抱かれた地域。山裾急峻な稜線の小さな山々が、自然と視野に入るほどよい近さにあり、幾重にも輻輳し地域を抱くように囲む。

### < 水分れ域の清らかな川 >

「水分れ」と呼ばれ瀬戸内海側と日本海側に水系をわける上流域。加古川、武庫川、由良川の源流地域。

本州一低い中央分水界を中心に南北にのびる低地帯「氷上回廊」を介して、瀬戸内海側と日本海側の動植物の交流が生まれ多様性を育んでいる。

### <大粒の名産品を育む田畑>

山々に抱かれた水分れの地。澄んだ空気、山から流れ込む清らかな水、栄養を蓄えた粘土質の土壌、さらには盆地特有の寒暖差と深い霧が田畑の産物の味わいを増す。

全国に名を馳せる栗、黒大豆、大納言小豆などは、古来より朝廷や幕府に献上され、現在も高い評価を得ている。

### <山里と街道沿いの集落と町>

中世から京の荘園として発達した長い歴史を有し、また、近世においても城下町が栄えるなど、現在も各時代の歴史的遺産が多く残っている。

山裾や川沿いに農村集落。集落の後背地に竹林や栗林。

城や大きな寺社の周辺に篠山、柏原などの城下町（門前町）。

旧街道沿いには福住、佐治などの宿場町。今田町には陶器町。

### <農の文化、森の文化>

中世より京文化の影響を受けて丹波猿楽など農を主体とした独自の文化を育んできた。近世には、丹波焼、丹波布などの工芸、丹波杜氏による酒造りが盛んになった。

現在では、丹波の森づくりの基本理念のもと、地域内各所に文化の拠点施設が設けられ、地域文化の育成が進められている。

さらに最近では、篠山市でデカンショ節、丹波焼と2つの日本遺産が認定されるなど丹波地域の個性豊かな文化に対する注目が高まっている。

### <恐竜が生きた森>

平成18年に、約1億1千万年前の地層篠山層群から、国内最大級の植物食恐竜「丹波竜」が発見された。その後も、他の恐竜や最古のほ乳類化石などの発見が続いている。

丹波地域の歴史と文化に、「恐竜が生きた大地で暮らす」というフィールドミュージアム構想の取組が加わることで、地域文化の厚みが増し、個性と魅力が一段と高まることとなった。

## III 区域・位置・人口

### <区域>

兵庫県の篠山市と丹波市、2市からなる。

東西50km、南北35km、総面積は約871k㎡、兵庫県総面積の約10%。

### <位置>

京阪神から車で1時間半程度、神戸から約50km、京都、大阪から約60km。

### <人口>

平成29年の推計人口は103,852人、65歳以上の高齢者人口が増加している。



### 【丹波の森宣言】（昭和63年9月1日）

丹波の自然と文化は、現在及び将来にわたる住民共有の財産であって、これを維持発展させることは私たちに課せられた重大な責務です。

今、私たちはこの責務を強く自覚し、お互いに力を合わせ、自然や文化を大切にしながら、これらを生かした「丹波の森」づくりを次のように進めることを宣言します。

1

丹波の健全な発展をそこなような自然破壊は行わず、森を大切に守り育てます。

2

丹波の自然景観を大切にし、花と緑の美しい地域づくりを進めます。

3

丹波の文化景観及び歴史的遺産を大切にし、個性豊かな地域文化を育てます。

4

丹波の素朴さと人情を大切にし、安らぎと活力に満ちた地域づくりを進めます。

# 「丹波の森」のすがた

自然と人と文化が調和した地域を「丹波の森」と呼び、大切に守り育てていく。  
丹波地域の住民は、この思いを昭和63年の「丹波の森宣言」に込め、実践してきた。  
その結果が、日本の原風景といわれ、全国に誇れるふるさと丹波の今の姿につながっている。

## I 丹波の森づくり

### < “もりびと” による丹波の森づくり >

丹波の森づくりがはじまって30年。この間、丹波地域では、北摂丹波の祭典 ホロンピア'88から、丹波の森協会の発足と丹波の森大学の開講、ウィーンの森との国際的な友好親善、シューベルティアードたんばや市民オペラの公演、丹波の森ウッドクラフト展の開催、丹波のむかしばなしの編纂など、さまざまな分野にわたり全県、全国にも誇れる先進的事業が進められてきた。

一方、少子高齢化による人口減少や、自然環境、生活環境の変化により、森や農地の荒廃、伝統文化の継承の難しさ、集落組織の維持困難といった地域課題にも直面している。

これら課題を乗り越え、住民・事業者・行政が丹波地域に誇りと愛着を持ち、自然を守り、生活文化を高揚させ、さらに、丹波地域に暮らす住民だけでなく、丹波地域と関わりのある人々や企業も含めて社会活動に積極的に取り組む人を“もりびと”と称し、「丹波の森づくり」に取り組んでいる。

## II 美しく懐かしい山里風景

地域を象徴するような際だった地形や地物、建造物はないものの、山々に囲まれた盆地にひろがる、川筋、農地、集落などの要素が絶妙なバランスを保って調和している山里風景が特徴で、美しく懐かしいその姿は、日本の原風景と言われている。



### < 四季折々に際立つ風景 >

日本海側と瀬戸内海側の中間性の内陸気候であり、盆地特有の年間の寒暖差、特に昼夜の温度差が大きい。このことが、秋の紅葉の名所の多さと鮮やかさ、秋冬の丹波霧に包まれた幽玄な風景の出現といった際だった風景を生み出している。

### < 地域を抱く山々 >

森林が約75%、比高約600mの山々に抱かれた地域。山裾急峻な稜線の小さな山々が、自然と視野に入るほどよい近さにあり、幾重にも輻輳し地域を抱くように囲む。

### < 水分れ域の清らかな川 >

「水分れ」と呼ばれ瀬戸内海側と日本海側に水系をわける上流域。加古川、武庫川、由良川の源流地域。

本州一低い中央分水界を中心に南北にのびる低地帯「氷上回廊」を介して、瀬戸内海側と日本海側の動植物の交流が生まれ多様性を育んでいる。



### <大粒の名産品を育む田畑>

山々に抱かれた水分れの地。澄んだ空気、山から流れ込む清らかな水、栄養を蓄えた粘土質の土壌、さらには盆地特有の寒暖差と深い霧が田畑の産物の味わいを増す。

全国に名を馳せる栗、黒大豆、大納言小豆などは、古来より朝廷や幕府に献上され、現在も高い評価を得ている。

### <山里と街道沿いの集落と町>

中世から京の荘園として発達した長い歴史を有し、また、近世においても城下町が栄えるなど、現在も各時代の歴史的遺産が多く残っている。

山裾や川沿いに農村集落。集落の後背地に竹林や栗林。

城や大きな寺社の周辺に篠山、柏原などの城下町（門前町）。

旧街道沿いには福住、佐治などの宿場町。今田町には陶器町。

### <農の文化、森の文化>

中世より京文化の影響を受けて丹波猿楽など農を主体とした独自の文化を育んできた。近世には、丹波焼、丹波布などの工芸、丹波杜氏による酒造りが盛んになった。

現在では、丹波の森づくりの基本理念のもと、地域内各所に文化の拠点施設が設けられ、地域文化の育成が進められている。

さらに最近では、篠山市でデカンショ節、丹波焼と2つの日本遺産が認定されるなど丹波地域の個性豊かな文化に対する注目が高まっている。

### <恐竜が生きた森>

平成18年に、約1億1千万年前の地層篠山層群から、国内最大級の植物食恐竜「丹波竜」が発見された。その後も、他の恐竜や最古のほ乳類化石などの発見が続いている。

丹波地域の歴史と文化に、「恐竜が生きた大地で暮らす」というフィールドミュージアム構想の取組が加わることで、地域文化の厚みが増し、個性と魅力が一段と高まることとなった。

## Ⅲ 区域・位置・人口

### <区域>

兵庫県の篠山市と丹波市、2市からなる。

東西50km、南北35km、総面積は約871k㎡、兵庫県総面積の約10%。

### <位置>

京阪神から車で1時間半程度、神戸から約50km、京都、大阪から約60km。

### <人口>

平成29年の推計人口は103,852人、65歳以上の高齢者人口が増加している。



### 【丹波の森宣言】（昭和63年9月1日）

丹波の自然と文化は、現在及び将来にわたる住民共有の財産であって、これを維持発展させることは私たちに課せられた重大な責務です。

今、私たちはこの責務を強く自覚し、お互いに力を合わせ、自然や文化を大切にしながら、これらを生かした「丹波の森」づくりを次のように進めることを宣言します。

1

丹波の健全な発展をそこなような自然破壊は行わず、森を大切に守り育てます。

2

丹波の自然景観を大切にし、花と緑の美しい地域づくりを進めます。

3

丹波の文化景観及び歴史的遺産を大切にし、個性豊かな地域文化を育てます。

4

丹波の素朴さと人情を大切にし、安らぎと活力に満ちた地域づくりを進めます。

# 「丹波の森」のすがた

## I 丹波の森づくり

### < “もりびと” による丹波の森づくり >

丹波の森づくりがはじまって30年。この間、丹波地域では、北摂丹波の祭典ホロンピア'88から、丹波の森協会の発足と丹波の森大学の開講、ウィーンの森との国際的な友好親善、シューベルティアアーデたんばや市民オペラの公演、丹波の森ウッドクラフト展の開催、丹波のむかしばなしの編纂など、さまざまな分野にわたり全県、全国にも誇れる先進的事業が進められてきた。

一方、少子高齢化による人口減少や、自然環境、生活環境の変化により、森や農地の荒廃、伝統文化の継承の難しさ、集落組織の維持困難といった地域課題にも直面している。

これら課題を乗り越え、住民・事業者・行政が丹波地域に誇りと愛着を持ち、自然を守り、生活文化を高揚させ、さらに、丹波地域に暮らす住民だけでなく、丹波地域と関わりのある人々や企業も含めて社会活動に積極的に取り組む人を“もりびと”と称し、「丹波の森づくり」に取り組んでいる。

篠山市、丹波市両市全域に地域住民が参画するまちづくり組織（まちづくり協議会、自治振興会等）が設置され、さらには、周辺地域の大学との連携が進み、多くの大学生が地域のまちづくりに加わっている。

また、平成26年8月の豪雨災害を教訓に、森林の防災機能の強化を目指し、災害に強い森づくりも進められている。

昭和63年 北摂丹波の祭典 ホロンピア'88の開催



昭和63年4月16日 開会式と  
各地で取られたさまざまな催し





平成2年 丹波の森協会設立



平成5年 ウィーンの森13区との友好親善提携



丹波の森づくり～住民参加の先進的な取組



シューベルティアードたんば



丹波の森ウッドクラフト展



創作オペラ おさん茂兵衛

丹波の森演劇塾



丹波のむかしばなし編纂



“もりびと”による地域活動の展開



レストラン「里山工房くもべ」  
篠山市くもべまちづくり協議会



イベント「ふくすみ雪花火」  
篠山市福住地区まちづくり協議会



丹波竜の里「元気村かみくげ」  
丹波市山南町上久下自治協議会



田舎暮らし体験施設「かじかの郷」  
丹波市青垣町神楽自治振興会



イベント「かいばらいと」  
大学等連携による地域行事への学生参加



里山での活動

～庭先からはじまる  
丹波の森づくり～  
たんばオープンガーデン



## Ⅱ 美しくて懐かしい山里風景

地域を象徴するような際だった地形や地物、建造物はないものの、山々に囲まれた盆地にひろがる、川筋、農地、集落などの要素が絶妙なバランスを保って調和している山里風景が特徴で、美しく懐かしいその姿は、日本の原風景と言われている。



### <四季折々に際立つ風景>

日本海側と瀬戸内海側の中間性の内陸気候であり、盆地特有の年間の寒暖差、特に昼夜の温度差が大きい。このことが、秋の紅葉の名所の多さと鮮やかさ、秋冬の丹波霧に包まれた幽玄な風景の出現といった際だった風景を生み出している。日照時間は、春と秋、中でも4～5月は夏季を上回り、県下で最も陽光輝く明るい春爛漫さくら満開の風景を楽しむことができる。

さらに、特産物である栗の白い花、大豆と稲の葉色の対比、自生種であるセツブンソウやクリンソウなどの花の彩りなど、四季折々に丹波地域ならではの風景が見られる。



桜咲く川と山



深緑あふれる山



黄葉に包まれた陶芸美術館



厳冬の情景



山里





## 川岸



桜づつみ回廊

## 田畑



レンゲ畑



若緑の稲穂



黄金の稲穂



深緑の黒大豆の葉



## ＜地域を抱く山々＞

森林が約75%、比高約600mの山々に抱かれた地域。

山裾急峻な稜線の小さな山々が、自然と視野に入るほどよい近さにあり、幾重にも輻輳し地域を抱くように囲む。

植生は、地域北西部（主に丹波市）の山腹はスギ・ヒノキの人工林、尾根筋はアカマツ・モチツツジの二次林、南東部（主に篠山市）はアカマツ・モチツツジの二次林、北側斜面や谷筋にコナラの二次林

このことから、二次林の多い南東部（主に篠山市）では、秋に山全体が黄葉し、日が差し込むと黄金色に美しく輝く。



多紀連山



鬼の架け橋



幾重にも輻輳した山

みわか  
＜水分れ域の清らかな川＞

「水分れ」と呼ばれ瀬戸内海側と日本海側に水系をわける上流域。加古川、武庫川、由良川の源流地域。

本州一低い中央分水界を中心に南北にのびる低地帯「氷上回廊」を介して、瀬戸内海側と日本海側の動植物の交流が生まれ多様性を育んでいる。

↑瀬戸内海へ（約70 km）



→日本海へ（約70 km）

水分れ(日本海と瀬戸内海への分岐点)

蛭が飛び交う源流



川代溪谷



オオムラサキ



モリアオガエル





## ＜大粒の名産品を育む田畑＞

山々に抱かれた水分れりの地。澄んだ空気、山から流れ込む清らかな水、栄養を蓄えた粘土質の土壌、さらには盆地特有の寒暖差と深い霧が田畑の産物の味わいを増す。(年平均気温は 14℃と瀬戸内海側に比べ 1～2℃低く、降水量は年間約 1,700mm と瀬戸内海側よりかなり多い。年間 63 日余り、晩秋の 10 月～11 月に 10～15 日程度の濃霧があり、丹波霧と呼ばれている。)

自然に恵まれた豊穡の地は、古来、四季折々に山の名品、里の逸品を育んできた。全国に名を馳せる栗、黒大豆、大納言小豆などは、古来より朝廷や幕府に献上され、現在も高い評価を得ている。秋の収穫期には、様々な味覚フェアが開催され、多くの来訪者でにぎわう。





## <山里と街道沿いの集落と町>

中世から京の荘園として発達した長い歴史を有し、また、近世においても城下町が栄えるなど、現在も各時代の歴史的遺産が多く残っている。

山裾や川沿いに農村集落。集落の後背地に竹林や栗林。

城や大きな社寺の周辺に篠山、柏原などの城下町（門前町）。

旧街道沿いには福住、佐治などの宿場町。今田町には陶器町。

社寺や旧街道沿いに鎮守の森、巨木銘木が残る。

現在では、古民家や洋館、木造校舎を保存活用。



農村集落



集落丸山



## 城下町（門前町）



篠山のまちなみ



柏原のまちなみ



篠山城跡



柏原藩陣屋跡



黒井城跡-雲海

寺社



柏原八幡宮



春日神社



波々伯部神社例祭



まけきらい稲荷



大国寺



興禅寺



丹波市内のもみじめぐり九カ寺



高源寺



円通寺



小新屋観音



達身寺



白毫寺



岩瀧寺



石龕寺



高山寺



慧日寺



陶器町（篠山市今田町）





## 巨木銘木



木の根橋-大ケヤキ



日置-ハダカガヤ



安田-大杉



上立杭-大アベマキ



追手神社-千年モミ

洋館、木造校舎



大正ロマン館



黎明館



八上小学校



## <農の文化、森の文化>

本州一低い中央分水界を中心に南北にのびる低地帯「氷上回廊」を介して、日本海側と瀬戸内海側の人、物、文化の交流が生まれ、古代に大陸文化の大和への伝承ルート、古代山陰道が形成される。

京都、大阪、播磨、山陰などからの街道が交差する文化の十字路として、さまざまな文化が入り交じり、中世より京文化の影響を受けて丹波猿樂など農を主体とした独自の文化を育んできた。近世には、丹波焼、丹波布などの工芸、丹波杜氏による酒造りが盛んになった。

明治時代の廃藩置県で、氷上、多紀の2郡（西丹波）が兵庫県に編入されたことから、阪神の文化の影響を受けるようになり、現在では、丹波の森づくりの基本理念のもと、地域内各所に文化の拠点施設が設けられ、地域文化の育成が進められている。その代表的な取組みである「国際音楽祭シューベルティアードたんば」は、毎年9月から11月にかけて、街角や社寺、ホールなどで、演奏会が開催されている。

さらに最近では、篠山市でデカンショ節、丹波焼と2つの日本遺産が認定されるなど丹波地域の個性豊かな文化に対する注目が高まっている。

### 郷土の芸能



春日能



鬼こそ

## 郷土の工芸



丹波布



稲畑人形

## 郷土の食



丹波杜氏がつくる地酒



猪や鹿の肉（ぼたん鍋、ジビエ料理）





郷土の祭り



織田まつり



柏原厄除大祭



はだか祭



黒井城祭



デカンショ祭



地藏盆



## 芸術・文化・スポーツイベント



パラグライダー体験



シューベルティアーデたんば



篠山 ABC マラソン大会

## 里山と親しむイベント



里山ハイキング



ツリーイング体験



アートクラフトフェスティバル



ハンモックカフェ



## 文化の拠点施設



兵庫陶芸美術館



陶の郷



丹波の森公苑



並木道中央公園



ささやまの森公園



丹波年輪の里



田園交響ホール

## ＜恐竜が生きた森＞

平成 18 年に、約 1 億 1 千万年前の地層篠山層群から、国内最大級の植物食恐竜「丹波竜」が発見。その後も、他の恐竜や最古の哺乳類化石などの発見が続いている。

平成 27 年に、管内両市にまたがる篠山層群とその周辺をエリアとして、「丹波地域恐竜化石フィールドミュージアム構想」を打ち立て、拠点施設の整備や住民参加型の化石発掘調査を進めている。平成 30 年には、フィールドミュージアム開館元年の記念イベントを実施。

丹波地域の歴史と文化に、「恐竜が生きた大地で暮らす」というフィールドミュージアム構想の取組みが加わることで、時間軸が一気に深まり、地域文化の厚みが増し、個性と魅力が一段と高まることとなった。



ちーたんの館



丹波地域恐竜化石  
フィールドミュージアム



丹波竜の里公園



### Ⅲ 区域・位置・人口

#### <区域>

兵庫県の篠山市と丹波市、2市の区域からなる。

東西 50km、南北 35 km、総面積は約 871k m<sup>2</sup>、兵庫県総面積の約 10%。

- ・ 古代の丹波地域は但馬、丹後をも含む大きな国だったが、但馬に続いて奈良時代（和銅 6 年）に丹後が分離された。
- ・ 中世には武家により荘園領域を一国として治められた。
- ・ 近世の明智光秀による丹波統一の後、江戸時代には、多紀郡は譜代大名の篠山藩領、氷上郡は外様大名の織田藩、鶴牧藩など 5 藩と、24 の旗本等が旧荘園領域を継承するかたちで小領分拠された。
- ・ 明治時代の廃藩置県で、氷上、多紀の 2 郡（西丹波）は兵庫県に、残りの 4 郡（中丹波、口丹波）は京都府にそれぞれ編入された。
- ・ 平成 11 年 4 月に、多紀郡 4 町が合併し「篠山市」となり、平成 16 年 11 月には氷上郡 6 町が合併し「丹波市」となり、現在に至っている。

#### <位置>

京阪神から車で 1 時間半程度、神戸から約 50km、京都、大阪から約 60km

- ・ 高速道路・舞鶴若狭自動車道、北近畿自動車道
- ・ 一般道・たんば三街道（たんばの森街道国道 176 号、427 号、デカンショ街道国道 372 号、水分れ街道国道 175 号）を主要道路として周辺地域と結ばれる。周辺地域との峠には数々のトンネル  
区域内 2 市の境界には明治、昭和、平成の鐘ヶ坂トンネル
- ・ 鉄 道・JR 福知山線で大阪・天橋立と結ばれる。特急こうのとりが運行  
JR 加古川線で加古川と結ばれる



#### <人口>

平成 29 年の推計人口は 103, 852 人、65 歳以上の高齢者人口が増加している。

参考 丹波地域に関するシンボル、ロゴマーク、マスコットキャラクター



(公財) 兵庫丹波の森協会  
シンボルマーク



篠山市章



丹波市章



兵庫県旗



丹波地域恐竜化石  
フィールドミュージアム

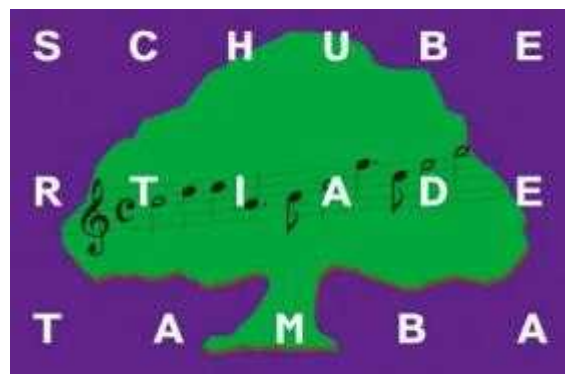
丹波地域恐竜化石フィールドミュージアムロゴマーク



大丹波連携推進協議会ロゴマーク



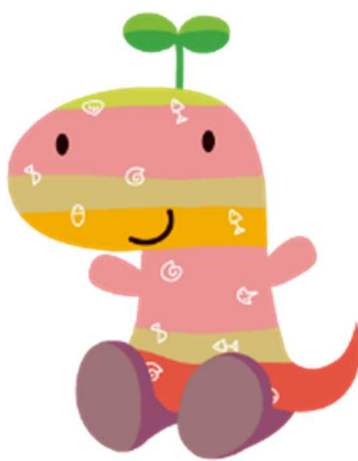
兵庫県政 150 周年記念ロゴマーク



国際音楽祭シューベルトアードたんばロゴマーク



(篠山市 まるいの)



(丹波市 ちーたん)



(兵庫県 はばタン)